



2026 SUPER GT RACE REPORT

SUZUKA CIRCUIT

Rd.5

8.22[sat] - 23[sun]

[place] 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

[weather] sat 曇り sun 晴れ

[spectators] 52,500人 (sat 20,500人 sun 32,000人)

Rd.1	OKAYAMA International Circuit	APR 11 - 12
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	MAY 3 - 4
Rd.3	Sepang International Circuit	JUN 20 - 21 *開催延期
Rd.4	FUJI SPEEDWAY	AUG 1 - 2
Rd.5	SUZUKA CIRCUIT	AUG 22 - 23
Rd.6	Sportsland SUGO	SEP 19 - 20
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 17 - 18
Rd.8	MOBILITY RESORT MOTEGI	NOV 7 - 8

TOM'S

真夏の鈴鹿で、36号車が粘りの走り。
96kgのサクセスウェイトを背負い9位入賞。
ランキング首位を維持し、後半戦へ。



2026 AUTOBACS SUPER GT Round5「SUZUKA GT 300km RACE」が、8月22日・23日に鈴鹿サーキットで行われた。気温30℃、路面温度45℃、さらには湿度も65%を超える過酷なコンディション下で、ランキング首位の#36 au TOM'S GR Supra (坪井翔／山下健太) は、96kgの重いサクセスウェイトを背負い、給油リストラクターがさらに厳しく制限される苦しい状況のなか、9位入賞。17ポイントのリードを維持して、シーズン後半戦に進む。



		RESULTS	
  TGR TEAM au TOM'S 坪井 翔 SHO TSUBOI 山下 健太 KENTA YAMASHITA		Round 5	
QUALIFYING 1		TSUBOI P11/1'46.606	
QUALIFYING 2		-	
RACE / Fastest Lap		TSUBOI 1'49.300 YAMASHITA 1'49.632	
		予選 11 位 決勝 9 位	
		Driver Standings 1 位	
		Team Standings 1 位	

QUALIFYING

天候:晴れ | 気温:34℃ | 路面温度:46℃

今回の舞台である鈴鹿サーキットは、36号車が得意とするコーナー区間が多いが、1周のアクセル全開率が高い。96kgのサクセスウェイトを背負い、燃料流量リストラクター制限を受ける36号車は苦戦を強いられる1戦となった。予選前の公式練習では、トラブルに見舞われる車両が相次ぎ、セッション中2度の赤旗により、合計で約40分も中断することになった。これにより思うようにテストメニューをこなすことができなかったが、最終的に10番手タイムを記録し、予選に向けて手応えを掴んだ。

14台中10台が通過できる予選Q1は、坪井翔が担当。1分46秒606を記録し、一時は6番手につける健闘をみせたものの、その後にライバルがタイムを更新し、100分の2秒差という僅差で11番手、Q1敗退となった。Q2進出は逃したが、サクセスウェイトを考慮すると好タイムと言える結果であった。



RACE

天候:晴れ | 気温:34℃ | 路面温度:49℃

11番手からスタートした36号車は、山下が前半スティントを担当した。前回のRound4富士では、コーナーでの速さを活かしてライバルを追い抜くシーンもあったが、今回の舞台である鈴鹿サーキットは追い抜くポイントが少ない。自力でライバルの前に出るのが難しいレースとなったが、ピットのタイミングを遅らせる作戦で順位を上げるべく周回を重ねた。

25周目にピットインし坪井に交代したが、前回よりも厳しい制限となっている給油リストラクターの影響もあり、ピットストップの時間を思うように短縮できず、チームが得意とするピットワークで順位を上げることができなかった。後半は10番手を走行していたが、粘り強くチャンスを探り続け、残り6周のところで9番手に浮上。すぐに8番手を走るライバルの背後につけたが、終盤のセーフティカー導入で追い抜くチャンスを逸し、そのままチェッカーとなった。目標とするポイント獲得はしっかりと達成できた。



TOM'S

Driver
坪井 翔

今大会はポイントを獲得することが目標だったので、その部分では良かったと思います。後半は、コーナーで速さがあっても燃料リストラクター等の関係で、ライバルの方がストレートスピードが速くて、追いついても抜くことができないもどかしい時間が続きました。クルマのポテンシャルの高さは確認できましたが、給油リストラクター制限のルールの厳しさを感じました。富士ではうまくいきましたが、追い抜きが難しいサーキットでどうやって追いつけるかを考えていかないとはいけません。

Driver
山下 健太

厳しいレースになるだろうとは思っていました。やはりコース上で抜くのが難しく、ずっとライバルに引っかかっている状態でした。さらに給油リストラクターの影響でピットストップ時にポジションが下がってしまい、坪井選手に追い抜いて順位を上げてもらえない状況になりました。やれることはやりましたが、限界という感じでした。そのなかで2ポイントを獲得できたのは大きいですし、次戦のSUGOはチャンスがあると思うので頑張ります。

Team Director
伊藤 大輔

9位という結果の響きはあまり良くないかもしれませんが、我々にとっては素晴らしい結果だと思っています。クルマのパフォーマンスはすごく高く、ライバルとも対等に戦っていました。その点に関しては満足しています。鈴鹿は富士のように抜きやすいサーキットではないですし、給油リストラクターも前回からさらに絞られているので、難しい戦いになることは予想していました。その状況下で、ドライバーが燃費走行を頑張ってくれたおかげで、タイムロスが最小限に抑えることができました。チーム一丸となり粘り強いレースができたと思います。

Team Principal
館 信秀

結果は決して良いとは言えませんが、TOM'Sとしては簡単ではない状況下でダブルポイントを獲得したのは良かったと思います。そのなかでも、重いサクセスウェイトを背負った36号車の9位は素晴らしい結果だと思います。次のSUGOでは、ライバルのサクセスウェイトも重くなってきますし、大量ポイントを獲得できるチャンスが出てくると期待しています。今回の36号車は、粘り強く頑張りました。また次戦も、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

aw

KDDI

アヲエト #303

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-DC TGR Driver Challenge Program

TGR-D

BRIDGESTONE

FXGT

spark

DRY ZERO

Entowa's NUSH

Y&C

OXREX

Vバンテリン

広島トヨペット

LHG

INTERIOR GUARD

P&S

Aidma Holdings

MASEKI GEINOSTA

uchino

Valmont

U's Factory

WILDERA UNIVERSITY

EDIFICE CASIO

TAKAHASHI SHOUJI ジヤントラックショー

TAMIYA

Achilles

車道テック

bryza

HR

PORTS.CO.JP

BRIDE

FUKADEN

S&D TAMA GROUP

ENKEI

HRX

MIZUNO

both.

ThreeBond

MITSUBISHI

KRS